

日時：平成 24 年 9 月 15 日（金） 13:15～13:55

場所：東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 3 階講堂

司会：第 19 回学術大会 柳澤年会長

1. 理事長挨拶：柳澤先生には、第 19 回学術大会の開催に当たりご尽力いただいたことを感謝したい。現理事会体制も残り 1 年となったが、日本免疫毒性学会のさらなる発展のために努めたい。来年には、次期役員改選の手続きも進める必要があるので、ご協力よろしくお願ひしたい。

（注：資料としては、平成 23 年度業務報告(案)および平成 24 年度後期・平成 25 年度前期事業計画(案)を会場入口にて配布した。当該資料は、本議事録と同様にウェブ会員専用サイトにアップする）

## 2. 報告事項

- 2.1. 平成 23 年度事業報告（案）（澤田）：事業報告は会計年度と同じく 4 月から翌年 3 月までとしている（尚、後述の平成 24 年度後期・平成 25 年度前期事業計画（案）は、理事会終了時点より翌年の理事会までの計画となる）。平成 23 年度の事業報告は、昨年度の事業を継続的に実施した内容になっているが、個々の事業内容については、各委員会からの報告を参照して頂きたい。

### 2.2. 事務局報告（大槻）

- 2.2.1. 会員動向：ここ数年、会員数は 240～250 名で前後している。例年通り、年度末に、特に企業所属の会員の部署変更などに伴う退会、学術大会における演題登録に伴う入会が生じている。理事 22 名、評議員 49 名は変動なし。
- 2.2.2. 会費納入状況：例年、年度末には 9 割前後の納入率となっている。現在は未だ 3 割強が未納であるが、学術大会会期中の納入も見込まれ、その後、秋と冬に請求を実施する（例年通り）。
- 2.2.3. HP バナー状況：現在、4 社である。会費値上げにより一般会計の逼迫状況は回避されているが、WEB 上のバナーとしてはもう少し多い方がよいので、理事並びに評議員の先生方には知己があれば事務局まで連絡してほしい。

### 2.3. 学術大会報告

- 2.3.1. 第 18 回学術大会 千葉（上野[代：大槻]）：161 名の参加があった。東日本大震災で開催が危ぶまれたこともあったが、無事終了することができた。会員各位に改めて感謝する。なお、年会賞は千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤研究室 山浦克典先生、学生・若手優秀発表賞は千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤学研究室 諏訪映 里子先生であった。
- 2.3.2. 第 19 回学術大会 東京（慈恵）（柳澤）：まだ半日しか経っていないが、本日の午前のセッションでは活発な討論が展開されており、うれしく思う。会員各位には、最終演題まで活発な討論への参加をお願いしたい。
- 2.3.3. 第 20 回学術大会 東京（東海・高輪）（坂部）：日程は、2013 年 9 月 12 日（木）・13 日（金）、場所は、東海大学高輪キャンパス（東京都港区高輪 2-3-23）に決まった。第 62 回産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会と共催する。テーマは、「免疫毒性学—未来図を探る」、第 20 回記

念講演・シンポジウムを開催する。なお、事務局は、神奈川県伊勢原市の東海大学医学部内（坂部研究室）に置く。近々HPを立ち上げ、その際には、日本免疫毒性学会 HP（本体）にリンクするようにする。

- 2.3.3.1. 第 20 回記念事業（藤巻）：学術・編集委員会内に記念事業小委員会を設置し、当該委員会委員に坂部・大槻を加え、運営委員会で検討を進めた結果、節目の年ではあるが、他の学会などもそれほど大規模な事業を行っていないので、当記念事業についても通常の学術大会の枠の中で、記念セッションを設けることとした。今年度の学術大会で大沢先生による特別講演「免疫毒性研究の温故知新」が設けられ、それを受けて、次年度は、国際的に基礎と臨床の観点から免疫毒性学の過去・現在・未来を語る Dr. Dean と Dr. Descotes を招聘することとした。また、日本側としては、澤田理事長に加えて、免疫並びに環境の免疫への影響にも関心を持たれている東京大学分子予防医学松島教授を招聘することになった。
- 2.3.3.2. 第 20 回記念事業としての第 40 回日本毒性学会学術年会でのシンポジウム（藤巻・上野・中村）：日本免疫毒性学会 20 回記念事業の一環として、来年、上野理事が第 40 回日本毒性学会学術年会の年会長を務められるので、その学術年会で、本学会主催のシンポジウムを実施する予定である。澤田理事長・大槻理事を座長として、資料にある吉岡・高野・野原・大槻・手島をシンポジストとして提案している。現在、日本毒性学会学術年会の実行委員会で検討中である。尚、次回の日本毒性学会学術年会ではバイオ製品の免疫毒性に関するワークショップも企画されているとの情報も紹介された。

## 2.4. 委員会報告

### 2.4.1. 学術・編集委員会（藤巻・野原）

- 2.4.1.1. ImmunoTox Letter：通巻 33 号より編集委員長を藤巻理事から野原理事に変更。次号から試験法委員会による免疫毒性試験のガイドラインの説明コラムを暫く継続する。
- 2.4.1.2. 学術大会アンケート調査：第 18 回学術大会でのアンケート調査を以て一旦休止とし、今後、その形式等を検討した上で再開する予定である。
- 2.4.1.3. 第 20 回記念事業：前述参照

### 2.4.2. 広報委員会（大槻）

- 2.4.2.1. ホームページ：継続的に情報の更新が行われている。尚、バナー広告拡充については前述参照。
- 2.4.2.2. メーリングリスト：種々の情報が配信されており、概ね月 1 回程度のペースでの配信となっている。また、本 ML は、会員なら誰でも発信可能であり、今回は第 19 回学術大会事務局より学術大会案内を多く配信してもらった。会員サイドからの ML の利用を促したい（万一の場合に備えて事務局でチェックする機能を設けている）。

### 2.4.3. 試験法委員会（筒井）：4 つの活動を行った。

- 2.4.3.1.1. WHO の化学物質の免疫毒性評価のガイダンスについて会員からパブリックコメントを求め、提出されたコメントを手島理事に取りまとめてもらい、提出した。一部採用され、本学会 HP から当該ガイダンスにアクセスできる。
- 2.4.3.1.2. JaCVAM からの皮膚感作性関連試験法の第三者評価依頼（牧）：現在、日本動物実験代替法評価センター（JaCVAM）から皮膚感作性関連試験法（今のところ、ペプチド結合試験並びに KeratinoSens）について本学会にその第三者評価が依頼され、当試験法委員会で対応するこ

とになった。その評価に当たっては、技術的な知識を必要とする場合、会員外に委員を委嘱することも考えられている。

2.4.3.1.3. 第 19 回学術大会では海外演者も含めて、*in vitro* immunotoxicology として WS を組んだ。

2.4.3.1.4. ImmunoTox Letter に試験法のガイドラインの情報を継続的に掲載することとした。

2.4.4. 国際化委員会（中村）

2.4.4.1. 今春の SOT では JSIT の企画として手島理事と Dr. Ladics により食品によるアレルギーのシンポジウムが開催され、発表者として新藤評議員、中村（亮）評議員が参加し、好評を博した。

2.4.4.2. 2015 年の SOT について、高野理事による企画が、ISS の中では採択されて SOT の本部委員会へ提出することになっていたが、ISS サイドの手違いで他の発表者の都合が調整できずに、提出を断念した。この企画自体は 2016 年の SOT への候補として継続して提案することとした。

2.4.4.3. 中村理事が 2010～2011 年に SOT/ISS の Councilor, 2011-2012 年に Senior Councilor (Award 担当)を歴任された。

2.5. 学会賞・奨励賞（牧）

2.5.1. 今年度は昨年度より 1 か月応募期間を長くし、昨年 12 月 1 日より今年 2 月末までとした。しかし、学会賞については応募がなかった。奨励賞については 2 名の応募があり、選考小委員会で厳正な選考を行い、その結果、2 名の研究は共に奨励賞に該当すると判断された。この総会の後、授賞式を実施し、小池先生には授賞式の後受賞講演を、西村先生は第二日目のシンポジストとなっているので受賞講演を兼ねてシンポジウム講演をしていただく。また、学会賞については、多くの応募を募るため、次年度より年齢制限（現在は 65 歳）を撤廃することが理事会で承認されたことが報告された。

2.6. その他

2.6.1. 特に議題なし

3. 審議事項

3.1. 平成 24 年度後期・平成 25 年度前期事業計画（案）（澤田）

3.1.1. すでに報告事項で各委員会あるいは学術大会年会長から報告された内容も含めて事業を継続したい。ただし、今期役員任期は、平成 25 年 9 月末で終了するため、改選手続きが必要になる。役員改選に当たってはご協力をお願いしたい。→審議の結果、満場一致で承認された。

3.2. 人事（大槻）

3.2.1. 名誉会員・理事・監事・委員会委員については変更・追加なし

3.2.2. 評議員：新評議員候補は資料の 5 名。

高橋先生（㈱新日本科学安全性研究所）

吉岡先生（大阪大学大学院薬学研究科）

Tin Tin Win Shwe 先生（国立環境研究所）

河井先生（第一三共㈱安全性研究所）

黒田先生（大阪大学免疫学フロンティア研究センター）

3.2.2.1. ここ 3 年間、評議員会については出欠を確認して来た。新任期となる次年度からは、3 年間無断で評議員会を欠席した場合、資格を失うことが理事会で決議されたことが報告された。

3.2.2.2. →審議の結果，人事案件について，満場一致で承認された。

3.2.3. 次々期（第 21 回）年会長（2014 年）（澤田）

3.2.3.1. 澤田理事長より，徳島文理大学薬学部 姫野理事を推薦する旨，提案された。→審議の結果，満場一致で承認された。

3.3. 会計（吉田）

3.3.1. 平成 23（2011）年度会計報告（案）

3.3.1.1. 資料に基づき吉田理事より説明が行われた。

3.3.1.2. 会計監査報告（小島監事）

3.3.1.2.1. 資料（報告書）に基づき小島監事より監査報告が行われた。→平成 23 年度会計報告は，審議の結果，満場一致で承認された

3.3.2. 平成 24（2012）年度修正予算（案）

3.3.2.1. 資料に基づき吉田理事より説明が行われた。→審議の結果，満場一致で承認された。

3.3.3. 平成 25（2013）年度暫定予算（案）

3.3.3.1. 資料に基づき吉田理事より説明が行われた。→審議の結果，満場一致で承認された。

3.4. その他

3.4.1. 特に議案なし

4. 次期会長挨拶（坂部）

4.1. 前述のように，今回と会場も近く，第 20 回という節目に合わせて記念行事の企画も充実させたい。ご協力をよろしくお願いします。

5. 次々期会長挨拶（姫野）

5.1. 元来，免疫毒性には少し縁遠かったが，近年，参加してくれた教室員が免疫毒性関係も研究をしているので，盛会になるように努力したい。まだ，日程その他も未定であるが，今後，本学会理事あるいは運営委員の先生方と相談の上，詳細を決めていきたい。徳島は飛行機でも関東から近く，また明石海峡大橋を抜けて，神戸からバスでも移動可能である。徳島といえば，阿波踊りと渦潮くらいとお思いの向きもあるかと思うが，魅力的な場所でもあり，ぜひ，多くのご参加をお願いしたい。

平成24年度 日本免疫毒性学会 第1回 総会・評議員会

日時：平成24年9月14日（金曜）13:00～13:50  
（含：受賞式）

場所：東京慈恵会医科大学 大学1号館3階会議室

議事次第

- 1 理事長挨拶
- 2 報告事項
  - 1) 事業報告
  - 2) 事務局報告
    - i 会員動向
    - ii 会費納入状況
    - iii HPバナー状況
  - 3) 学術大会報告
    - i 第18回 千葉 終了報告
    - ii 第19回 東京（慈恵）
    - iii 第20回 東京（東海）  
含：20回記念行事
  - 4) 委員会報告
    - i 学術・編集委員会
    - ii 広報委員会
    - iii 試験法委員会
    - iv 国際化委員会
  - 5) 学会賞・奨励賞
  - 6) その他
- 3 審議事項
  - 1) 事業計画（案）
  - 2) 人事
    - i 名誉会員：
    - ii 理事：
    - iii 評議員：新評議員候補
    - iv 委員会：
    - v 次々期（第21回）年会長
  - 3) 会計
    - i 平成23（2011）年度決算（案）
    - ii 平成23（2011）年度監査報告
    - iii 平成24（2012）年度修正予算（案）
    - iv 平成25（2013）年度暫定予算（案）
  - 4) その他
- 4 次期年会長 挨拶
- 5 次々期年会長 挨拶

平成23年度日本免疫毒性学会事業報告（案）

平成24年9月15日

1. はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会としての活動期間を含め、発足後18年が経過しました。その間、免疫学と毒性学に係わる異分野の方々の情報収集と意見交換の場として、小規模ではありますが、きわめて学際的な学会として機能して参りました。平成23年度も、本学会の特色を保ちつつ、新しい発展性のある研究動向もとりいれ、会員にとってメリッットのある学会にすべく、従来からの国内活動はもとより、米国トキシコロジー学会免疫毒性分科会（SOT-ISS）との交流等、国際的な活動の強化にも努めて参りました。また、本年度も、学会の活性化や運営基盤の強化のために活動を行いました。

2. 平成23年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の事業報告

1) 平成23年度理事会及び総会・評議員会の開催

理事会：平成22年9月7日、千葉市  
総会・評議員会：平成22年9月8日、千葉市（詳細は、<http://www.immunotox.org/member/gijiroku201110908.pdf>をご参照ください。）

2) 第18回日本免疫毒性学会学術大会の開催

第18回学術大会を、平成22年9月8日、9日、千葉大学けやき会館（千葉市）にて、「臨床と基礎の免疫毒性クロストーク」のテーマの下に開催いたしました【年会長：上野光一（千葉大学大学院薬学研究院）】。（プログラム等の詳細は、<http://www.immunotox.org/index.html>の「学術大会」のページで、第18回学術大会をご確認ください。）

3) 第19回日本免疫毒性学会学術大会の開催準備

第19回学術大会【平成24年9月15日、16日、東京都、年会長：柳澤裕之（東京慈恵会医科大学）】の開催に向けて、準備を行いました。

4) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の発行を行いました。  
16巻第1号（通巻31号、平成23年6月号）、和文版13頁、英文版2頁  
16巻第2号（通巻32号、平成23年12月号）、和文版13、英文版5頁

3. 平成23年度の事務局及び委員会の活動

以下の活動を行いました。

1) 事務局

（総務担当：大槻理事）  
・会員の異動、会員数（名誉・一般・学生・賛助各会員及び休会員）の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）等に関する事務。  
・名簿作成（会計担当：吉田理事）  
・一般会計及び基金会計に関する事務  
・予算書・決算書の作成

2) 運営委員会

3回（平成23年4月13日、同7月26日、同12月9日）の会合を東京にて開催し、会務及び学術大会開催準備等の運営が円滑に行われるよう連絡を密にし、学会運営上の諸問題の対処方針を議論しました。

3) 学術・編集委員会（委員長：藤巻理事）

ImmunoTox Letter の刊行を上記のように年2回行い、学会ホームページに掲載し、メールマガジンを併せての旨連絡しました。通巻24号より行われている英語版の追加も継続しました。本学会の学術的な充実を図るため、第12回学術大会より実施されているアンケート調査の内容の強化を試み、提出されたご意見の紹介及びそれに対する運営委員会の回答もImmunoTox Letter に掲載しました。  
また、学会賞等選考小委員会委員長（下記参照）の指名を行い、選考を依頼しました。

4) 広報委員会（委員長：大槻理事）

学会ホームページの定期的な更新を行い、学術大会等に関する情報を追加しました。また、英語サイトの充実にも努めました。バナー広告企業を新たに増やすための検討を行い、各理事には積極的に勧誘を行ってもらうようにしました（平成23年3月で、4社）。

5) 試験法委員会（委員長：筒井理事）

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第18回学術大会ワークショップのテーマとして、発達期免疫毒性（developmental immunotoxicity）を取り上げ、四名の先生に主に評価法の観点からの話題を發表して頂きました。

6) 国際化委員会（委員長：中村理事）

米国Society of Toxicology (SOT)-Immunotoxicology Specialty Section (ISS)のメンバー（Dr. Greg Ladics）の学術大会シンポジウムへの参加は、SOT-ISS（旅費）及び第18回学術大会（滞在費）からの補助によって行われました。また、中村理事は、本年度、米国Society of Toxicology (SOT)-Immunotoxicology Specialty Section (ISS)のSenior Councilorを務めました。

また、手島理事は、2012年3月開催のSOTにおいて、Dr. Greg Ladicsとともに企画したImTox-3STTジョイントシンポジウム“The allergenicity and Immunomodulatory Effect of Food Substances”の座長を務め、当学会の会員2名（新藤智子、中村亮介の両先生）が発表を行いました。

7) 学会賞等選考小委員会（委員長：牧理事）

平成24年度の学会賞及び奨励賞の応募受付を、平成23年12月1日（開始）～平成24年2月29日（締切）の期間に行い、応募書類に基づき、授賞者の選考を行いました。選考の結果、奨励賞に西村泰光（川崎医科大学）及び小池英子（国立環境研究所）の両氏を選定しました。

4. 平成23年度会計報告

1) 通常会計

別紙のとおり

2) 基金会計

別紙のとおり（個人的な寄付、学術大会返納金等は通常会計から分離して基金会計として管理しています。）

会 員	2003.4	2004.4	2005.4	2006.4	2007.4.16	2008.4.15	2009.4.1	2010.4.1	2011.4.1	2012.4.1	2012.7.6	2012.9.5
会員総数	245	253	263	255	253	223	232	231	240	237	239	242
一般会員					238	214	219	219	224	222	221	224
学生会員					12	6	7	7	10	9	12	12
賛助会員					0	0	1	0	0	0	0	0
名誉会員					3	3	5	5	6	6	6	6
住所不明による休会扱い					14	2	3	4	6	3	3	3
会費納入義務者数 一般会員/学生会員					225/11	212/6	217/7	215/7	218/10	219/9	218/12	221/12

入会・退会者	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
入 会	16	25	25	24	19
退 会	53(36)	15(3)	25(5)	18	20

2012年度 2012.9.5現在	11
	5

( )内は会費滞納により退会処理した会員数

役 員	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
理 事	21	21	21	22	22
評 議 員	48	55	58	49	49
会計監査	2	2	2	2	2

2012年度 2012.9.5現在	22
	49
	2

会費納入状況	2007.3.31	2008.3.31	2009.3.31	2010.3.31	2011.3.31	2012.3.31
未納なし	175	197	209	206	198	190
未納あり	75	23	18	21	27	36
合 計	250	220	227	227	225	226

2012.9.5	155
	78
	233

- 3) 学術大会報告  
 i 第18回 千葉 終了報告  
 ii 第19回 東京 (慈恵)  
 iii 第20回 東京 (東海)  
 含: 20回記念行事

年会賞:  
 千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤研究室  
 山浦克典先生  
 学生・若手優秀発表賞:  
 千葉大学大学院薬学研究院高齢者薬剤学研究室  
 諏訪 映里子先生

The 18<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology  
 President: Prof. Koichi Ueno  
 Sep. 8-9, 2011  
 Univ. Chiba Keyaki-Hall

参加者: 事前登録 会員71名 (含: 薬学会会員5名), 非会員13名, 学生7名  
 当日参加 会員23名 (含: 薬学会会員2名), 非会員27名, 学生20名 計161名

### 3) 学術大会報告

- i 第18回 千葉 終了報告
- ii 第19回 東京 (慈恵)
- iii 第20回 東京 (東海)
- 含：20回記念行事

#### 免疫毒性学の過去・現在そして未来

1) 第19回学術大会：免疫毒性研究の温故知新 (大沢 基保 先生)

2) 第20回大会 企画セッション

① Dr. Jack H. Dean:

President, Drug Development Advisors, LLC & Research Professor, University of Arizona



② Pr. Jacques Descotes:

Centre antipoison-Centre de PharmacovigilancePoison Center and Pharmacovigilance Department



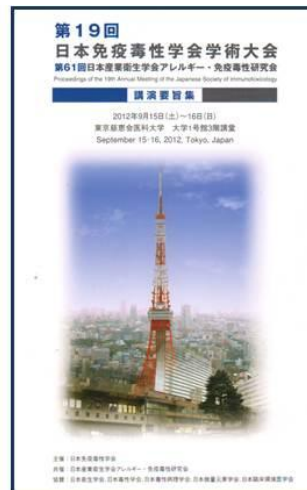
③ 松島 綱治 先生

東京大学分子予防医学 教授



3) . 第40 回日本毒性学会学術年会

- i. 日時：2013年6月17日 (月) ~19日 (水)
- ii. 会場：幕張メッセ 国際会議場
- iii. テーマ：「医療・環境から学び、医療・環境へと還元する毒性学」
- i. 年会長：上野 光一 (千葉大学大学院薬学研究院)



シンポジウム名：免疫毒性の最近の潮流

iv. 演題

- I. ナノ粒子の安全使用に向けた検討：免疫毒性学の観点から  
吉岡靖雄 (大阪大学大学院薬学研究科毒性学分野)
- II. 環境汚染物質とアレルギー：毒性影響からかく乱影響へ  
高野裕久 (京都大学 工学研究科 環境衛生学講座)
- III. 環境化学物質の免疫細胞に対する分化・増殖かく乱作用の分子機序  
野原恵子 (国立環境研 環境健康研究センター 分子毒性機構研究室)
- IV. アスベストの免疫毒性学的側面と病態への関与  
大槻剛巳 (川崎医科大学 衛生学講座)
- V. WHO 化学物質の免疫毒性リスク評価ガイダンス  
手島玲子 (国立医薬品食品衛生研究所)

### 4) 委員会報告

#### i 学術・編集委員会

✓ ImmunoTox Letterの発刊



12月 発刊 (VO.12.No.2) の ImmunoTox Letter から、免疫毒性試験のガイドラインの説明のコラムを暫く継続的に掲載する

編集委員長 藤巻先生→野原先生 (Vol.13より)

✓ 学術大会アンケート  
一旦休止とし、装いを新たに近い将来から再開予定

✓ 20周年企画 (前述)

日本免疫毒性学会アンケート(2011年)

学術編集委員会

1. 第17回日本免疫毒性学会学術大会の発表に関するご感想

大変満足	( 6 )
ほぼ満足	( 30 )
ふつう	( 6 )
やや不満	( 3 )
不満	( 0 )

その他のご感想

- \*懇親会が素晴らしい。ポスター演題が増えると良いと思う。
- \*ポスター発表少ない。ポスター会場狭い。製薬企業の参加7年前より大幅減。
- \*例年と比較して演題が少なかったのが残念です。
- \*免疫毒性? と考えるものもあった。

2. 第17回日本免疫毒性学会学術大会の運営に関するご感想

大変満足	( 15 )
ほぼ満足	( 22 )
ふつう	( 8 )
やや不満	( 0 )
不満	( 0 )

その他のご感想

- \*大ホールの空調が寒かったです。
- \*休憩時間が程よい長さでたくさんあったので嬉しかったです。休憩スペースやコーヒーまであって、嬉しかったです。
- \*けやき会館のまわりに生協や大きな木の木陰やいすなどがあって便利だった。懇親会での合唱が、とても心にしみてよかった。学生さんが一生懸命歌ってくれたことや歌声でみんなにも表現できることも感動しました。食物アレルギーの分野について、大変勉強になった。スライド修正用のパソコンもありがた配りしてくださっていることを感じました。1日目のお弁当がおいしかったです。
- \*クールビズでよかったが、会場の冷房は十分で、むしろ時間によってはききすぎていた。
- \*アットホームでよかった。
- \*ランチョンセミナーの場所を要旨にも記していただきたい。
- \*会場の冷房が強すぎて寒かった。節電を。

3. 日本免疫毒性学会の全体的な活動に関するご感想

大変満足	( 6 )
ほぼ満足	( 27 )
ふつう	( 10 )
やや不満	( 2 )
不満	( 0 )

4. 学会のホームページやImmuno Tox Letterに関するご感想

大変満足	( 6 )
ほぼ満足	( 26 )
ふつう	( 11 )
やや不満	( 2 )
不満	( 0 )

4) 委員会報告

ii 広報委員会

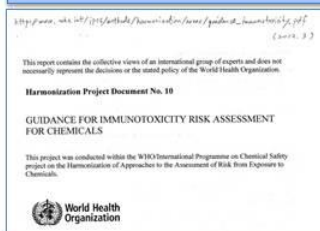
HPの充実・mailing listの活用

iii 試験法委員会

第19回大会でのワークショップ：in vitro immunotoxicology

現在JaCVAMで検討が予定されている代替法試験の中で、2014年に**JaCVAMで評価予定の皮膚感作性試験のペプチド結合試験及びKeratinosence**が日本免疫毒性学会に評価依頼されることは否めない。その際に、試験法委員会を中心に、国内の関連企業の経験者の参加を募り、評価を行うことになると思われるが、以下の点に留意されたい。

1. 国内の関連企業の経験者の参加を募るに当たり、可能な限り日本免疫毒性学会の会員になっていただく。勿論、試験法委員会委員が、オブザーバー権限で部外者に評価を依頼することも可能としているが、会員増、学会の活性化のために会員になって頂くよう依頼する。
2. 実際に、これらの試験の評価を行うに当たり、海外データを読み込んで評価するという点でも主旨には合致するが、実施していない試験法を評価することに対して若干の危惧もある。この点については、今後検討していく。
3. 上記iiの点を考慮すると、人選を早めに行った方がよい。
4. 代替法学会とJaCVAMとの関係の中に、日本免疫毒性学会の試験法委員会が入ることとなるので、組織間の調整を十分に取る。



WHOの化学物質の免疫毒性リスク評価のガイダンスについて：WHOのウェブサイト公開となった。日本免疫毒性学会HPにもリンクを張る

4) 委員会報告

iv 国際化委員会

SOT/ISSとの交流年表	JSIT→ISS	ISS→JSIT
2005		Dr. Cohen (第12回東京) J.Imminotoxの紹介
2006		Dr. Regal (第13回倉敷) 特別講演
2007		Dr. Dietert (第14回神戸) シンポジスト
2008	第47回Seattle 香山先生：JSIT紹介	Dr. Pruet (第15回東京) 招聘講演
以後、正式に契約を交わし、相互の宿泊費負担を開始。JSITからの企画をSOT/ISSの企画として審議、採択されては企画セッションを実施。		
2009	第48回Baltimore 野原先生：シンポジウム	Dr. Zelikoff (第16回旭川) シンポジスト
2010	第49回Salt Lake City 大槻：シンポジウム	Dr. Baurleson (第17回つくば) シンポジスト
2011	第50回Washington D.C. 吉田先生：ワークショップ *50回を記念してブース出展	Dr. Ladics (第18回千葉) シンポジスト
2012	第51回San Francisco 手島先生：シンポジウム 発表者： 新藤先生、中村(亮)先生	Dr. Loveren (第19回東京) 特別講演
2013	第52回San Antonio	第20回記念セッション Dr. Jack Dean
2014	第53回Phenix 候補：高野先生	



★日本免疫毒性学会  
中村和市理事  
SOT/ISSにて、2010-2011年に Councilorとして、2011-2012年に Senior Councilorとして活動。



## 第2回 学会賞・奨励賞 → 総会后、授賞式

応募期間：

平成24年度 応募 平成23年12月1日（開始）～平成24年2月29日（締切）

学会賞：応募なし

奨励賞

1) **小池 英子 先生**（独立行政法人国立環境研究所環境健康研究センター）

→ 授賞式後、受賞講演

2) **西村 泰光 先生**（川崎医科大学衛生学）

→ 16日16時からのシンポジウムにて発表（兼：受賞講演）

★ 次年度応募から学会賞の年齢制限を廃止する。

### 日本免疫毒性学会事業計画（平成24年度後期・平成25年度前期）（案）

平成24年9月15日

#### 1 はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会としての活動期間を含め、発足後18年が経過しました。その間、免疫学と毒性学に係わる異分野の方々の情報収集と意見交換の場として、小規模ではありましたが、きわめて学際的な学会として機能して参りました。今後も、本学会の特色を保ちつつ、新規性と発展性のある研究動向も積極的にとりいれて、会員にとってメリットのある学会として存続することが求められています。そのためには、学会の運営基盤の強化のために国内の学術活動のより一層の充実を図る必要があると考えます。また、本学会の国際化のため、引き続き米国トキシコロジー学会免疫毒性分科会（SOT-ISS）等との交流も深めて行きたいと思っております。

本学会の事業計画は、例年、秋期の総会で承認を得た後に開始されることから、本事業計画は、概ね平成24年度の総会当日から平成25年度の総会前日に亘る期間（平成24年度後期及び平成25年度前期）を対象としています。なお、事業報告と会計上の予算は、通常の年度（4月から翌年3月）の期間で行っています。また、補充役員等の通常任期に關しましては、10月1日から活動を開始することといたします。

#### 2. 事業計画（平成24年9月15日から平成25年度総会前日まで）

- 平成24年度理事会、総会・評議員会の開催  
理事会：平成24年9月14日、東京都  
総会・評議員会：平成24年9月15日、東京都
- 第19回日本免疫毒性学会学術大会の開催  
第19回学術大会を、平成24年9月15日、16日、東京都にて開催しました【年会長：柳澤裕之（東京慈恵会医大）】。
- 第20回日本免疫毒性学会学術大会の開催準備  
第20回学術大会【平成25年9月、東京都、年会長：坂部真（東海大学）】の円滑な運営のための準備を行います。同時に、大会20周年記念の企画も検討します。
- 学会役員などの改選  
平成25年度後期（10月1日付け）以降の評議員及び理事の改選を行い、総会で承認を得ます。
- 平成25年度理事会の開催  
平成25年秋、東京都（予定）
- ImmunoTox Letterの発行  
既に17巻第1号（通巻33号、平成24年6月号）は既刊となっておりますが、さらに下記の2号の刊行を予定しています。  
17巻第2号（通巻34号、平成24年12月号）  
18巻第1号（通巻35号、平成25年6月号）
- 学会賞及び奨励賞の選考  
平成25年度学会賞及び奨励賞の応募を行い、学会賞等選考小委員会において授賞者の選考を行います。
- 第21回日本免疫毒性学会学術大会の開催地の決定  
第21回日本免疫毒性学会学術大会（平成26年秋）の年会長【予定：姫野誠一郎（徳島文理大学）】及び開催地【予定：徳島市】に関して総会の了承を得ます。

#### 3. 事務局及び委員会の活動

以下の活動を予定しています。

- 事務局（総務）
    - 会員の異動、会員（名譽・一般・学生・賛助各会員＋休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会を整理）等の事務
    - 名簿作成（会計）
      - 一般会計及び基金会計に関する事務
      - 決算書及び予算書の作成
  - 運営委員会  
平成24年度前期に既に2回（平成24年4月6日、同24年7月13日）開催していますが、さらに数回の会合を開催し、会務、学術大会等に関して運営が円滑に行われるよう、連絡を密にするように努めます。
  - 学術・編集委員会  
上述のImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載し、電子メールにて周知を図ることを予定しています。英語版の追加も継続して行います。また、学会賞及び奨励賞の選考のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、授賞候補者の選考を依頼します。
  - 広報委員会  
継続して、学会ホームページの定期的な更新を行い、英語サイトの充実に努めます。パナー広告企業を新たに増やすため、積極的な勧誘を行います。
  - 試験法委員会：  
本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、学術大会ワークショップのテーマとして、試験法を中心に企画します。第19回学術大会では、in vitro immunotoxicologyに関するディスカッションを予定しています。また、JaCVAM委員会より委嘱された国際動向に対応する新規安全性試験法、特に、皮膚感作性関連試験法の有用性とその限界について調査並びに評価を行います。
  - 国際化委員会  
米国トキシコロジー学会の免疫毒性セクション（SOT-ISS）との交流に関して、今後とも積極的に取り組んでいく予定です。
- #### 4. 予算
- 平成24年度通常会計補正予算（平成24年4月1日～平成25年3月31日）  
別紙のとおり
  - 平成25年度暫定予算（平成25年4月1日～平成26年3月31日）  
別紙のとおり
  - 基金会計  
別紙のとおり、学術大会返納金や個人的な寄付等を、通常会計から分離して別途会計として管理し、学会賞等の副賞に充当すると共に、通常会計では対応不可能な、しかし、予算措置を必要とする案件に備えます。

人事

名誉会員・理事・監査・委員会委員：変更なし  
 理事長・理事・評議員任期 2010年10月～2013年9月

\* 評議員について：次期任期からは3年連続で評議員会欠席の場合は、評議員資格が失効することとする。

新評議員候補

候補者氏名	候補者所属	推薦者氏名	推薦者所属
高橋 義博	(株)新日本科学 安全性研究所 バイオ研究部 免疫評価グループ	牧 栄二	(前)(財)食品農医薬品安全性評価センター
		大槻 剛巳	川崎医科大学衛生学
吉岡 靖雄	大阪大学大学院薬学研究科 毒性学分野	大槻 剛巳	川崎医科大学衛生学
		西村 泰光	川崎医科大学衛生学
Tin Tin Win Shwe	(独)国立環境研究所 環境健康研究センター	野原 恵子	(独)国立環境研究所 環境健康研究センター 分子毒性機構 研究室 11
		平野 靖史郎	国立環境研究所環境リスク研究センター
河井 良太	第一三共(株) 安全性研究所 第4グループ	筒井 尚久	田辺三菱製薬株式会社 開発本部 臨床薬理部
		大槻 剛巳	川崎医科大学衛生学
黒田 悦史	大阪大学免疫学フロンティア研究センター ワクチン学研究室	森本 泰夫	産業生態科学研究所 呼吸病態学
		大槻 剛巳	川崎医科大学衛生学

次々期年会長（第21回）2014年

徳島文理大学 薬学部 教授 **姫野 誠一郎** 先生



平成 24 年度 日本免疫毒性学会 総会（兼 評議員会） 議事録

日本免疫毒性学会 平成 23 年度（2011 年度） 会計報告（案）

一般会計

(単位円)

収入	科目	修正予算	決算	備考
	前年度(2010年度)繰越金	879,924	879,924	
	H23年度(2011年度)会費	1,792,000	1,630,000	内訳(一般:186×8千、過去年度1×6千+12×8千、過払2×8千、学生:11×2千、過去年度1×2千)
	ホームページ・バナー広告	240,000	270,000	{(4社×2期)+(1社×1期)}×3万円
	SOT-ISS学会負担金	80,745	80,745	
	第18回学術大会(千葉)戻し金		69,632	
	雑収入	1,000	230	銀行預金利息
	収入合計	2,993,669	2,930,531	

支出	科目	修正予算	決算	備考
	第19回学術大会(東京)運営費	600,000	600,000	
	第51回SOT年会派遣助成	100,000		別途経費にて充当
	会議費	200,000	143,430	会議費(委員交通費)
	通信費	100,000	70,558	刀手・葉書、宅配便、電話
	News Letter 製作費	150,000	138,600	第16巻、1、2号
	事務費	250,000	183,498	文具、振込料金、事務局旅費、FAX代等
	ホームページ維持費	300,000	277,987	
	基金会計へ振替	394,959	394,959	第17回学術大会戻し金分(つくば)
	予備費	898,710	1,121,499	次年度(2012年度)への繰越
	支出合計	2,993,669	2,930,531	

基金会計

収入	科目	修正予算	決算	備考
	前年度(2011年度)繰越金	918,341	918,341	
	通常会計より	394,959	394,959	第17回学術大会戻し金
	雑収入	200	96	銀行預金利息(定期預金)
	収入合計	1,313,500	1,313,396	

支出	科目	修正予算	決算	備考
	学会員・奨励員 副賞	80,000	80,000	学会員(5万円、1名)、奨励員(3万円、1名)於第18回(千葉)
	予備費	1,233,500	1,233,396	次年度(2012年度)への繰越(内:普通預金:332,500円 定期預金:900,896円(70万円普通預金口座から移動))
	支出合計	1,313,500	1,313,396	

平成 23 年度（2011 年度）日本免疫毒性学会

会計監査報告書

平成 23 年度日本免疫毒性学会の会計書類を慎重に監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしましたので、ご報告いたします。


2012年 8月 17日

高橋道人

高橋道人 

2012年 8月 27日

小島幸一

小島幸一 

平成 24 年度 日本免疫毒性学会 総会（兼 評議員会） 議事録

日本免疫毒性学会 平成 24 年度（2012 年度） 修正予算案

一般会計

収入 (単位円)

科目	暫定予算	修正予算	備考
前年度(2011年度)繰越金	750,710	1,121,499	
H24年度(2012年度)会費	1,792,000	1,736,000	内訳 一般会員217名、会費8,000円(2012年4月現在)
ホームページ・パンフレット	240,000	240,000	4社×2期×3万円：240,000円
雑収入	300	300	銀行預金利子2011年度実績 230円
収入合計	2,783,010	3,097,799	

支出

科目	暫定予算	修正予算	備考
第20回学術大会(東京)運営費	600,000	600,000	2013年、年会長：坂部貢先生
第52回SOT年会派遣助成	100,000	0	2013年3月 サンアントニオ、共同提案企画中断により派遣見送り
会議費	200,000	200,000	会議費(委員交通費、2011年度実績 143,430円)
通信費	100,000	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2011年実績 70,558円)
News Letter 制作費	150,000	150,000	2号分(2011年実績138,600円)
事務費	250,000	250,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等(2011年実績183,498円)
ホームページ維持費	300,000	300,000	2011年実績 277,987円
予備費	1,083,010	1,497,799	次年度(2013年度)への繰越見込み
支出合計	2,783,010	3,097,799	

基金会計

収入 (単位円)

科目	暫定予算	修正予算	備考
前年度(2011年度)繰越金	1,313,500	1,233,396	
寄付		50,000	寄付(会員：5万円×1)
第18回学術大会(千葉)戻し金		69,632	
雑収入	200	200	銀行預金利子(定期預金：2011年実績96円)
収入合計	1,313,700	1,353,228	

支出

科目	暫定予算	修正予算	備考
学会賞・奨励賞 副賞	110,000	60,000	於：第19回学術大会 学会賞(5万円、0名)、奨励賞(3万円、2名)
予備費	1,203,700	1,293,228	次年度(2013年度)への繰越見込み
支出合計	1,313,700	1,353,228	

日本免疫毒性学会 平成 25 年度（2013 年度） 暫定予算案

一般会計

収入 (単位円)

科目	暫定予算	備考
前年度(2012年度)繰越金見込み	1,497,799	
H25年度(2013年度)会費	1,736,000	内訳(一般会員会費納入義務者数217名、2012年4月現在)
ホームページ・パンフレット	240,000	4社×2期×3万円：240,000円
雑収入	300	銀行預金利子2011年度実績 230円
収入合計	3,474,099	

支出

科目	暫定予算	備考
第21回学術大会(徳島)運営費	600,000	2014年、年会長：姫野誠一郎先生
20周年記念事業費	700,000	第20回学術大会 国内外からの招聘費等(旅費・宿泊費等)
第53回SOT年会派遣助成	100,000	2014年3月 フェニックス、アリゾナ州(派遣者：高野先生)
会議費	200,000	会議費(委員交通費、2011年度実績 143,430円)
通信費	100,000	切手・葉書、宅配便、電話(2011年実績70,558円)
News Letter 制作費	150,000	2号分(2011年実績138,600円)
事務費	250,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	300,000	2011年実績 277,987円
予備費	1,074,099	次年度(2014年度)への繰越見込み
支出合計	3,474,099	

基金会計

収入

科目	暫定予算	備考
前年度(2012年度)繰越金見込み	1,293,228	
雑収入	200	銀行預金利息
収入合計	1,293,428	

支出

科目	暫定予算	備考
学会賞・奨励賞 副賞	110,000	学会賞：5万円、奨励賞：3万円×2
予備費	1,183,428	次年度(2014年度)への繰越見込み
支出合計	1,293,428	

# 第20回 日本免疫毒性学会学術大会

第63回  
日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会

第20回記念学術大会テーマ

## 「免疫毒性学-未来図を探る」

### 第20回記念講演・シンポジウム開催

会 期：2013年9月12日(木)～13日(金)

会 場：東海大学高輪キャンパス（東京都港区高輪2-3-23）

年会長：坂部 貢(東海大学医学部生体構造機能学領域教授)



事務局：〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143

東海大学医学部基礎医学系生体構造機能学領域

TEL.0463-93-1121 内線2514 FAX.0463-92-7440 E-mail: sakabek@tokai-u.jp



東海大学  
**高輪キャンパス**

〒108-8619 東京都港区高輪 2-3-23  
TEL : 03-3441-1171 (代表)



**高輪  
キャンパス**

**アクセスマップ**

Access Map



**東海大学高輪キャンパスへの交通アクセス詳細**

JR・京浜急行「品川駅」下車。高輪口より徒歩約 18 分（改札より右方向（田町方面）に進み、「高輪 2 丁目」交差点を左折）。

JR・京浜急行「品川駅」下車。高輪口より都バス「目黒駅行」に乗り「高輪警察署前」下車。徒歩約 3 分。

東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金高輪駅」下車。出口 1 から左に進み、徒歩約 8 分。

都営地下鉄浅草線「泉岳寺駅」下車。A2 出口より徒歩約 10 分。



**高輪  
キャンパス**

**校舎内マップ**

Campus Map



Copyright © Tokai University. All rights reserved.